

＜第 4 回「津波浸水想定検討部会」の対応について＞

	検討項目	対応
①	沿岸市町が避難計画を策定するには、津波の流速、津波到達時間等をどのように伝えるのか考える必要がある。	代表的な津波浸水予測図に事例として、地区海岸ごとに海岸部の最大津波高さ、第一波到達時間、最大津波高到達時間、最大流速、津波の浸水方向を表記した資料を示した。
②	津波浸水予測図の、基となる現地形等について沿岸市町等の職員に確認をしてもらった方がよい。	沿岸市町及び県土木（治水）事務所の職員に確認中であり、地形等に変更があれば成案に向けて反映する。
③	津波浸水深の表記について、2 m から 5 m、5 m 以上が同色で幅が大きく大雑把となっている。メートルごとに細分化して表記して欲しい。	津波浸水予測図（案）として 2 m 以上の浸水深を 1 m ごとに細分化し表記した。（資料 3 参照）